



南葵音楽文庫アカデミー 春

THE ACADEMY OF NANKI MUSIC LIBRARY

和歌山県立情報交流センターBig・U/和歌山県立図書館(本館)

申込について

事前申込要 (定員60名・先着順)

聴講は以下の要領でお申し込みください。

《メールでのお申込み》

題名に「南葵音楽文庫アカデミー参加希望」と書き、

- ①参加希望日
- ②参加者氏名
- ③連絡先電話番号

を本文中に明記のうえ、

event@lib.wakayama-c.ed.jp

までご送信ください。

※返信メールが受信できるよう設定してください。

《来館/FAX/往復ハガキでのお申し込み》

上記の①～③に加え、

- ④参加者の郵便番号、住所、
- ⑤メールアドレス(任意)

を記入し、ご来館または下記までご送付ください。

[FAX] **073-436-9511** (和歌山県立図書館)

[郵送] 〒641-0051 和歌山市西高松1-7-38

和歌山県立図書館サービス課 宛

★各回ごとに定員になり次第受付を締め切ります。

★申込後に参加ができなくなった場合は、
直ちにその旨ご連絡をお願いします。

申込受付: 1/15(水)～

問い合わせ先:

[TEL] **073-436-9520** (和歌山県立図書館)

[主催] 和歌山県立図書館

2月22日(土) 13:30-15:30

和歌山県立情報交流センターBig・U

(田辺市) 研修室1

「南葵音楽文庫」100年 今、その扉をひらく

美山良夫 (慶應義塾大学名誉教授)

1924年、南葵文庫の東京帝国大学寄贈に際し、音楽部門は除かれ徳川頼貞のもとで独立した歩みを始めます。頼貞は音楽事業部を設立、資料蒐集のみならず多様な音楽振興策を起動させます。それを支えた紀州人脈、数奇な命運など、和歌山に寄託公開されて明らかになった稀有の音楽コレクションの姿と歩みを、100年を機に、まとめて報告します。

南葵楽堂図書表札
1924年10月2日開設



1921年5月 巴里の頼貞

近藤秀樹 (大阪教育大学講師)

1921年、徳川頼貞は第二次外遊に出発。5月にはパリに滞在し、フランスの大作曲家サン=サーンスとダンディに会い、また、ロシアバレエ団の公演に出かけてプロコフィエフと再会、彼の紹介でストラヴィンスキーとも会っています。さまざまな新しい芸術に沸きかえるパリで、頼貞は何を見、何を聴いたのでしょうか。パリでの頼貞の歩みをたどります。



ストラヴィンスキーの肖像(1920) プロコフィエフの肖像(1921)
画:バプロ・ピカソ 画:アンリ・マチス
出典:ともにフランス国立図書館

2月23日(日) 13:30-15:30

和歌山県立図書館(本館)

2階 講義・研修室

南葵音楽図書館の軌跡②

カミングス文庫 歴史と現在

佐々木勉 (元名古屋音楽大学教授) 林淑姫 (旧日本近代音楽館主任司書) 美山良夫 (慶應義塾大学名誉教授)

「この文庫の価値は或る博物館の持つ価値であります」(兼常清佐、1926年)と驚嘆しながら、当時の研究員たちが最初のカミングス文庫の目録(南葵音楽図書館、1925年)を編纂して100年。その後、『南葵音楽文庫蔵書目録(貴重資料)』(1970年)にカミングス文庫の収蔵資料も収録されましたが、長期にわたり南葵音楽文庫そのものが公開されなかったために、カミングス文庫は、ただ漠然と「貴重な」といわれるばかりの存在になってしまいました。しかし、和歌山で公開された今、より多くの視点から、具体的に、その価値を語るできるようになりました。新たなカミングス文庫所蔵目録の編纂も、進行中です。ここでは、幾ばくかのダメージはありながらも、日本で1世紀余にわたり維持されてきたコレクションの現在を、複眼的な視座から語ります。

※当日は11:00から南葵徳川音楽塾(於 南葵音楽文庫閲覧室)も開催されます。詳細裏面